

感染症発生動向調査委員会報告 9月

《今月のトピックス》

- デング熱の国内感染例が報告されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状況が継続しています。

全数把握疾患 9月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	10件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
デング熱	6件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
アメーバ赤痢	5件	梅毒	2件
急性脳炎	3件	風しん	1件

＜腸管出血性大腸菌感染症＞計10件(O157VT2 6件、O157VT1 1件、O26VT1 2件、O145VT2 1件)の報告がありました。肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分以上加熱)し、食品はよく洗い新鮮な材料を使うなど予防対策が重要です。家庭内での2次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにすることが大切です。

＜デング熱＞6件(海外感染例1件、国内感染例5件)の報告がありました。1999年から2014年7月まで感染症発生動向調査で報告された症例はすべて海外での感染例でしたが、2014年8月に都内公園で感染したと推定される症例が報告されて以来、9月22日までに計142名の国内発生例が報告されています。横浜市内の医療機関からも、9月22日までの時点で7件の国内発生例の届出(うち1件は市外在住)があり、すべての症例で代々木公園への訪問歴がありました。[横浜市内の蚊の調査](#)では、デング熱のウイルスは認められていません。デング熱は通常3～7日の潜伏期の後、急激な発熱で発症し、発疹、頭痛、骨関節痛、吐気・嘔吐などの症状が出現します。デング熱の詳細な所見、診断方法や治療法については「[デング熱診療ガイドライン\(第1版\)について\(厚生労働省\)](#)」を参照してください。

＜レジオネラ症＞肺炎型4件、ポンティアック型1件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症4件、腸管及び腸管外アメーバ症1件の報告がありました。報告のうち1件は国内での経口感染が推定されていますが、他はすべて性的接触による感染が推定されています。

＜急性脳炎＞3件の報告(2歳7ヶ月児、4ヶ月児、1ヶ月児)がありました。病原体検索中です。この3件の疫学的なつながりは確認されていません。2014年は、9月22日までに既に10件の報告があります。2013年5件、2012年8件、2011年7件と、過去3年間と比べてやや報告が多くなっており注意が必要です。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者3件の報告がありました。そのうち2件は国内、残る1件は海外(タイ)での同性間性的接触による感染でした。

＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞2件の報告(60歳代、90歳代)がありました。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞3件の報告(80歳代、70歳代、20歳代)があり、80歳代と70歳代の2件は予防接種歴が確認できませんでした。20歳代の1件は生体肝移植者で、予防接種歴が1回ありました。

＜梅毒＞早期顕症梅毒Ⅱ期(丘疹性梅毒疹あり。国内での異性間性的接触による感染)が1件、晩期顕症梅毒(神経症状あり。感染経路感染地域等不明)の報告が1件ありました。

＜風しん＞学童の臨床診断例(予防接種歴1回あり)が1件ありました。

定点把握疾患 平成26年8月25日から平成26年9月21日まで
 (平成26年第35週から平成26年第38週まで。ただし、性感染症については平成26年8月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

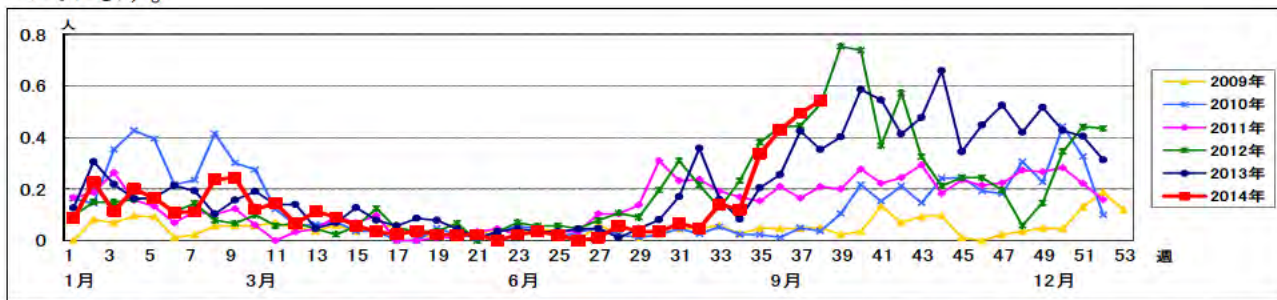
平成26年 週一月日対応表

第35週	8月25日～8月31日
第36週	9月1日～9月7日
第37週	9月8日～9月14日
第38週	9月15日～9月21日

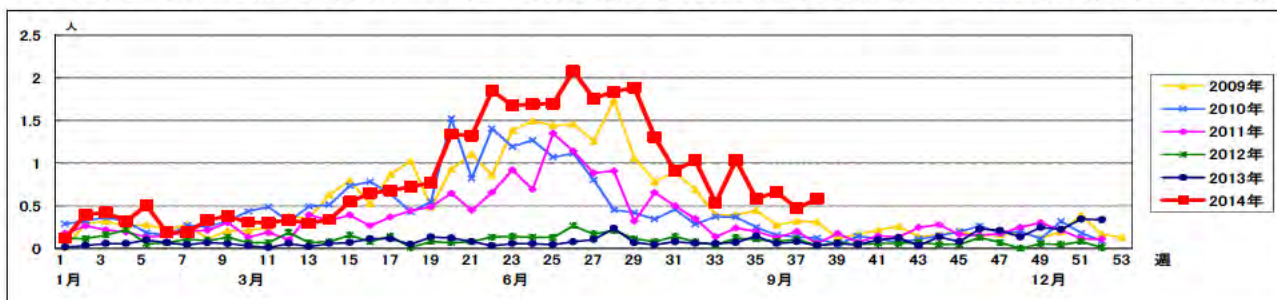
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

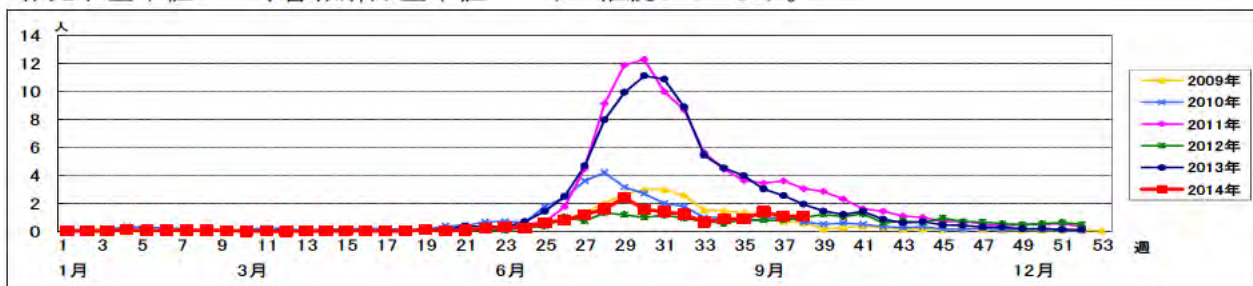
<RSウイルス感染症>第33週頃から報告が増加し、第38週は市全体で定点あたり0.54となっています。例年これからの時期は報告数が多い状態が続くので注意が必要です。区別では緑区2.50で報告が多くなっています。



<伝染性紅斑>第26週の市全体で定点あたり2.08をピークに徐々に報告数は減少し、第38週0.59となっています。港南区2.33で警報レベル(警報発令基準値:2.00、警報解除基準値:1.00)が継続しています。



<手足口病>第38週は市全体で定点あたり1.07となっています。区別では、港南区3.00で警報レベル(警報発令基準値:5.00、警報解除基準値:2.00)が継続しています。



<性感染症>8月は、性器クラミジア感染症は男性が12件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が20件、女性が0件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第35週2.25、第36週0.50、第37週0.00、第38週0.00と、第36週以降報告はやや落ち着いてきました。無菌性髄膜炎は第38週に1件報告がありました。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>8月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点42件、基幹定点3件で、眼科定点5件、定点外医療機関からは5件でした。

10月10日現在、ウイルス分離2株と各種ウイルス遺伝子39件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(9月)

主な臨床症状 または診断名 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ (疑い含む)	RS 感染症	咽頭結膜熱 (アデノ感染症含む)	胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	流行性角結膜炎	発熱のみ	口内炎	りんご病	その他
アデノ NT	2	1		1	1									
インフルエンザ AH1pdm09		1												
パラインフルエンザ 1型		2			1									
パラインフルエンザ 2型	1													
パラインフルエンザ 3型	1	1												
パラインフルエンザ 4型		1												
RS		3		6							1			
ライノ	3	2			1									
コクサッキー A 2型								1						
コクサッキー A 4型						1								
コクサッキー A 6型								1						
コクサッキー A 16型							2							
エンテロウイルス 71型							1							
ヒトパレコウイルス 1型								1						
ヒトパレコウイルス						2								
エコー	2													
ノロ	1													
合計	10	11		7	1 2	3	3	1 2			1			

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、NT:未同定

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

9月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点から1件、基幹定点から2件、その他が15件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7、O157:H-、O111:H-、O146:H21、O26:H11、O26:H-)、*Campylobacter jejuni*が検出されました。腸管出血性大腸菌(O111:H-)はインドへの渡航者から検出されました。

その他の感染症は小児科から1件、基幹定点から4件、その他が12件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(9月)

感染性胃腸炎			9月			2014年1月～9月		
検査年月	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数			1	2	15	4	73	102
菌種名								
赤痢菌							1	1
腸管病原性大腸菌							1	
腸管出血性大腸菌					14		1	75
腸管毒素原性大腸菌							3	
腸管凝集性大腸菌							1	
サルモネラ							25	7
カンピロバクター					1	1		3
NAGビブリオ								1
不検出			1	2	0	3	41	15
その他の感染症								
検査年月	定点の区別		9月			2014年1月～9月		
件数			小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数			1	4	12	31	31	153
菌種名								
A群溶血性レンサ球菌	T1					2		2
	T4		1			7		
	T6					6		
	T9							1
	T11					1		
	T12					6		
	T B3264					2		
	型別不能					3		1
B群溶血性レンサ球菌				4	1		4	18
D群溶血性レンサ球菌								2
G群溶血性レンサ球菌								3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					1		15	2
<i>Legionella pneumophila</i>					1			7
インフルエンザ菌					1			7
肺炎球菌					4	1		67
<i>Neisseria meningitidis</i>								1
結核菌								4
百日咳							1	
その他					3		10	6
不検出			0	0	1	3	1	32

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】